

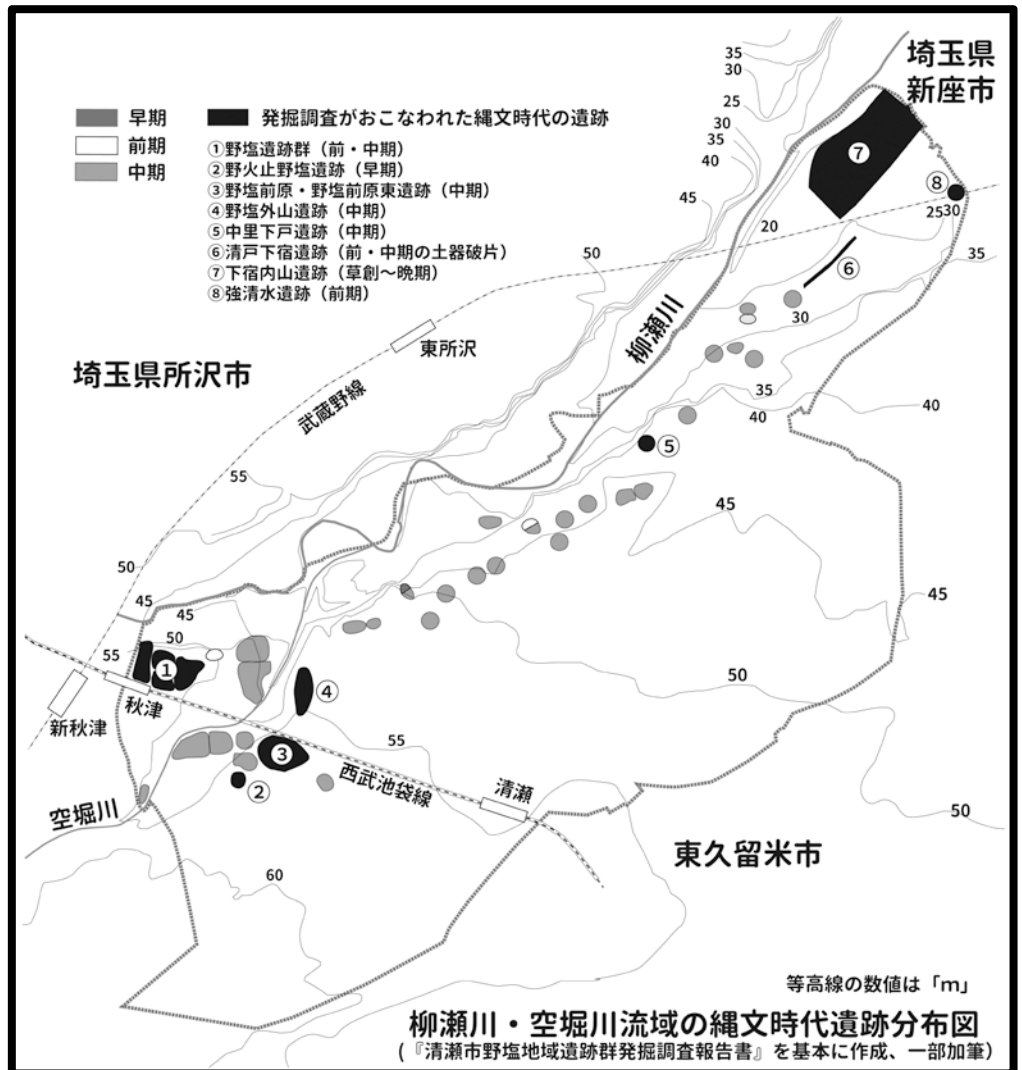
清瀬の縄文時代

清瀬市の縄文時代の遺跡分布は、ほぼ柳瀬川・^{からぼり}空堀川流域に集中しています。その内訳は、縄文時代早期（約10,000～6,000年前）4遺跡、前期（約6,000～5,000年前）9遺跡、中期（約5,000～4,000年前）54遺跡、後期（約4,000～3,000年前）3遺跡、晩期（約3,000～2,400年前）2遺跡となっています。特に、市内では縄文時代中期の遺跡が数多く見つかっています。

現在までに、発掘調査が行われた柳瀬川・空堀川流域の縄文時代の遺跡としては、早期の野火止野塩遺跡、前期の^{のびどめ}強清水遺跡・^{こわしみず}下宿内山遺跡、中期の中里下戸遺跡・野塩遺跡群・野塩前原遺跡群、そして野塩外山遺跡があげられます。

秋津駅付近の野塩外山遺跡や野塩前原遺跡群からは、住居が多く見つかリ、この辺り一帯の縄文集落の様相が解る発掘成果となりました。

また、近年、下宿内山遺跡の再整理により、約13,000年前～10,000年前の^{そうそう}草創期の土器が見つかる新しい発見がありました。

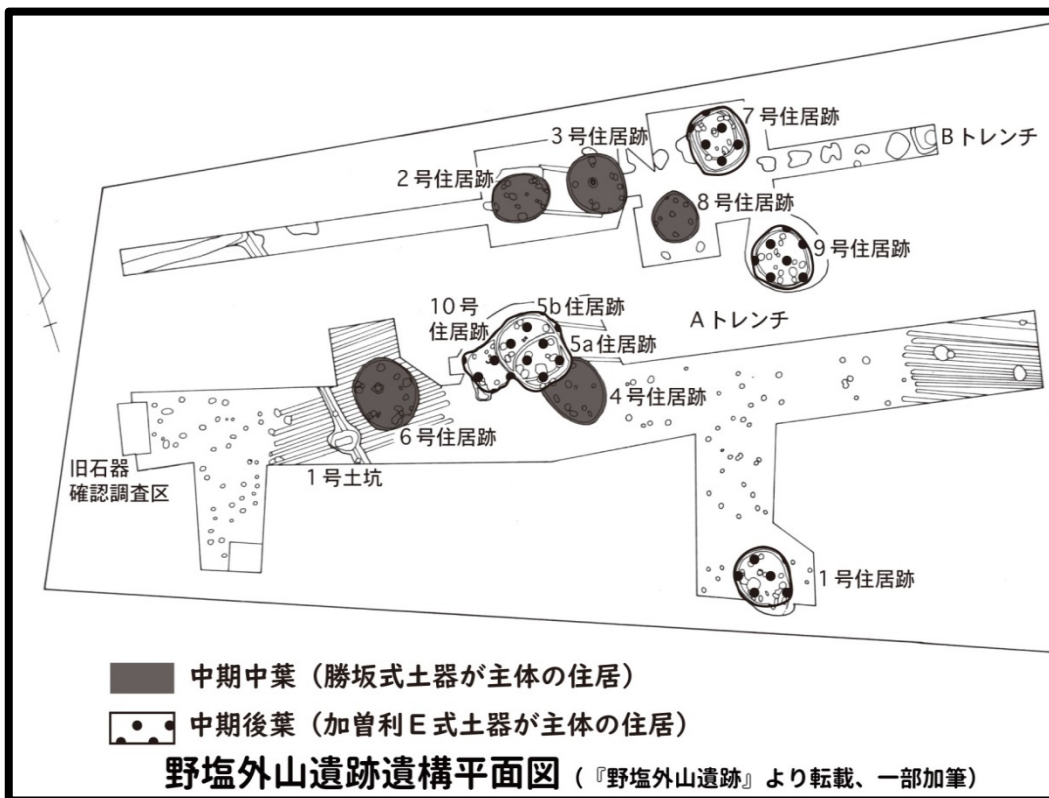


野塩外山遺跡（縄文時代中期）

野塩外山遺跡は、野塩3丁目42 に所在し、平成6年（1994）に調査が行われました。発掘調査によって、^{ちゅうよう こうよう}中期中葉～後葉の^{せきぞく}竪穴式住居10軒が検出されました。勝坂式・加曾利E式の土器を中心に、石鏃（矢の先に付いていた石製の矢じり）・打製石斧、そして石棒が出土しました。

竪穴式住居は、中期中葉の勝坂式から加曾利E式へ移行する時期に集中して作られた住居であり、南へ約350m離れた場所には、ほぼ同時期の野塩前原遺跡群があります。

このことから、この付近一帯が縄文時代中期中葉頃に狩猟・採集・漁^{ぎょ}撈（魚・貝を捕る事）に適した場所であったことが想定されます。



野塩外山遺跡3号住居
出土石棒



野塩外山遺跡出土縄文土器 (1・2:勝坂式土器、3・4:加曾利E式土器)